



生活やものづくりの学びNetニュース

巻頭言

行き過ぎた効率主義からの転換を

世話人副代表 /新潟大学 鈴木賢治

新型コロナウイルスの対応をみると、保健所を減らしてきたことの危うさを教えている。病床逼迫、医療崩壊の見出しも目につく。しかし、医療崩壊を招いているのは、コロナ感染そのものではなく、真の原因は医療の効率化の名のもとに医療機関を統廃合して、病院を減らし、一般病床も毎年減らしてきたことにある。コロナ感染に対処する余力がそもそもない。

コロナ感染に伴い、萩生田文部科学大臣は、小学校の少人数学級について政府内の調整を進めており、実現を期待したい。しかし、教員の働き方改革が国会で問題になるほど多忙化が常態化し、教職はブラックと見なされている。それを反映し、教員養成学部の志願倍率はジリジリと低下している。さらに拍車をかけているのが、教員養成学部の定員削減である。当然ながら、教員採用の志願者は減る一方である。私の試算では、25 人学級を年次送りして 6 年で実現するには、毎年 8580 人の追加採用をする必要がある。教員養成学部の定員を増やさなければ、少人数学級は絵に描いた餅になる。これこそ「緊急事態宣言」でないだろうか。

日本海側では、この冬は大雪に見舞われ、毎日 2 時間の除雪に追われた。それが一晩で、また元の状態になっている。4日も続くともう限界である。

効率化の名のもとに、暖冬が続くと除雪の予算も減らされ、それを担う人材もいない。昨年末の関越道では、2100 台の車が立ち往生した。報道されないが、沿線の住民たちが声をかけ合い救援に駆けつけて、車を次々と助け出していた。参加した人に聞くと、その現場に NEXCO 東日本の職員は 3 人しかいなかったという。

災害に対する耐力、復元力を持った社会には、裕度が必要である。こうしてみると、「効率化=利益最優先」の日本社会の危うさが浮き彫りになる。巨大地震などを考えれば、過密都市そのものが危険である。しかし、地震対策だけで、都市の解消はタブーである。気候変動の課題は待ったなしだが、原発停止を火力で補っている。水害は年々被害が増えており、それが都市で起きたら被害は甚大である。

都市は資本を増大するには都合がよい。ごくわずかな富める人のために国民が犠牲になる社会を転換するしかない。市場原理を叫んできた人たちの責任を追求すべき時期である。その構造転換の原動力は、タテ社会からヨコ社会への転換であろう。タテの人間関係は支配を強めるだけである。ヨコの人間関係を育てる仕事、このネットワークをはじめとする教育の仕事でもある。

Contents

巻頭言	1
報告 「生活やものづくりの学びネットワーク 公開フォーラム」 報告	2~4
生活やものづくりの学びネットワーク 第 12 回 総会報告	4
中教審に提出した「家庭科、技術・家庭科教育充実のための要望書」の内容	5
会員継続のお願い・事務局からのお知らせ	6
春の学習交流会 2021 のお知らせ	7
総会時の企画と春の学習会のテーマ一覧と次回総会の案内	8

報告

生活やものづくりの学びネットワーク 公開フォーラム 「新しい生活様式」を意識した授業づくり—コロナ禍の中の子どもと学校—

2020年9月27日(日)10:00~12:15の日程で、「生活やものづくりの学びネットワーク 公開フォーラム」が、Zoomによる遠隔開催にて開催された。「新しい生活様式」を意識した授業づくり—コロナ禍の中の子どもと学校—をテーマとして東京家政学院大学(ネットワーク世話人) 小野由美子氏の司会の下、お茶の水女子大学附属中学校 有友愛子氏、奈良教育大学附属中学校 中嶋たや氏、麻布学園 麻布中学校・麻布高等学校 小山田祐太氏を話題提供者にお迎えし、テーマに関して話題提供をいただいた。その後、ブレイクアウトセッションで班ごとに交流を行い、最後に全体で班の代表者から交流内容の報告を受けた。参加者は92名だった。

I. テーマについて 赤塚 朋子 世話人代表

コロナ禍、「新しい生活様式」が求められるなか、今こそ、「生活やものづくりの学び」が求められていることを痛感しています。「新しい生活様式」は「新しい生活創造」とつながります。この「生活創造」の学習内容を持つ教科の実践をネットワークとして共有できないだろうかと考えました。そこで、公開フォーラムのテーマを『「新しい生活様式」を意識した授業づくり—コロナ禍の中の子どもと学校—』と設定しました。

教育現場での困難を克服しながら、新しい学びのあり方を模索している全国の教員や参加された皆様とともに、「生活やものづくりの学び」について語り合う場を提供し、ネットワークのよさを発揮するきっかけをつくりたいと思いました。当日の参加者は100人を超え、関心の高さと希求されていることがわかりました。話題提供者の皆様へ感謝申し上げますとともに、ご参加くださった皆様に御礼申し上げます。グループ毎の時間は短かったですが、有意義な時間となりました。今後も続けたいと思いました(文責:赤塚朋子)。

II. 話題提供者 要旨

① お茶の水女子大学附属中学校 有友 愛子 氏

本校での休校期間は2月末からゴールデンウィーク明けまでに及びました。この間、教科書が学校と家庭をつなぐ共通の教材でした。1年生には衣服の手入れについて、2年生にはミシンの扱い方を復習する課題を出しました。2・3年生にはさらに、休校期間で自宅にいる時間が長いことから住まいの安全性や室内環境に関する課題

を、学年を超えた学習内容の入れ替えを行う形で出しました。

オンデマンド型の学習では、元々使用している学習支援システム Moodle を使用しました。動画は PowerPoint のスライドに音声を加えて書き出す方法で作成しました。Web サイトや、アンケート機能も使いましたが、生徒の学習状況を把握するだけではなく、生徒同士の学びの共有の場を作るよう心がけました。

「新しい生活様式」と家庭科の授業について考えた際、教材の共有、外部人材との連携、ICT 機器の活用の可能性の検討が大切です。教材の共有については、学習支援システムを日常的に活用することで欠席した生徒の学習保障だけでなく、出席した生徒の復習としても役立ちます。例えば、教科書会社が公開しているコンテンツの URL を挿入することで、ミシンの使い方を生徒がいつでも視聴できます。



外部人材との連携も今まで以上にしやすくなります。これまでは、卒業生である特別講師をお迎えして鯛の塩釜焼き作りを教わったり、魚食について SDGs の視点からのご講演でしたが、ICT 機器の活用で、お互いの情報の発信や受け取りのハードルが下がり、連携しやすく、継続的なつながりが期待できます。また、教員による肉や魚の調理の学習の後、「肉の調理、魚の調理~お茶中生の視点から学ぶ~」と題して、ウェアラブルカメラで上級生の目線で撮影した調理動画を視聴して、気づきや調理のポイントを整理、共有させることもできます。

遠隔学習においても、生徒が学びの共有の場に価値を見出すために、相手意識やつながりを意識した授業づくりを心がけ、生徒自身が学んだことを人生や社会に生かそうと思える授業でなくてはならないと思います。

(文責:小野由美子)

② 奈良教育大学附属中学校 中嶋 たや氏

本校は、ICT環境が整っていないためネット環境での授業はほとんど行っていません。休校期間中は、紙媒体のものを生徒に配布するのが基本でしたが、奈良県からのアカウントをもらってからは、GoogleのMeetという機能を使って朝の会を行いました。

課題は、ゆうパックを使って出しましたが、教科通信の「たや通信」を用いて課題の説明を行いました。教科通信は、①家庭科の授業に対する教師の思い・基本的な考えを伝える。②授業の基本的なルールを伝える。③「授業で学習したことを生活に返す」ための課題に関わって家庭への協力を要請する。④授業の内容を家庭に知らせる。⑤教師として大切だと思う生活に関する情報を生徒・保護者に伝える。⑥生徒間・保護者間の意見交流の場を作り、より良い生活について考える手掛かりを示す。という目的で作成しています。

1年生の「たや通信」は例年入学後の授業で説明するものを作って配らせてもらいました。休校中の課題は、「家事労働について考えてみようレポート」と「自立度チェックをしてみよう」を出しました。それと同時に、「家族の中でのあなたの仕事を決めよう」として責任をもって家族のために家事労働を行うこととしました。QRコードを示して取り組みに意識付けを図るようにしました。

らうことを提案しました。

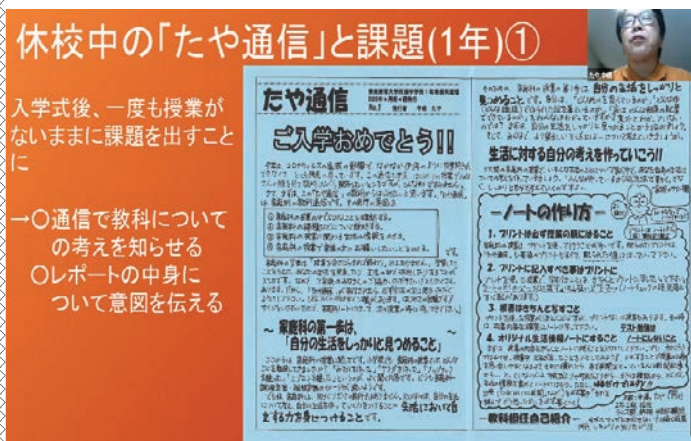
オンライン授業としては、教育実習の直前の大学生を対象に「家庭授業設計」を担当し、現場の教師の視点で、私が考える家庭科「自立した生活者を育てること」「自分らしい生活を作る力を身につけさせること」について話しました。前半2日間はオンライン、後半2日間は中学校に来てもらいました。私は、オンラインのデメリットの方を感じています。学生は3人でしたが、表情の変化が見えないとやる気がないようにしか見えませんでした。私は、ICTを活用した授業を否定するつもりはないのですが、生徒が自分達で生活を作るため話し合わせたいと思っているので、ICTの活用は最小限にとどめ、アナログでいけるところはアナログで進めたいと思います。

(文責：阿部睦子)

③ 麻布学園・麻布中学校・麻布高等学校 小山田 祐太氏

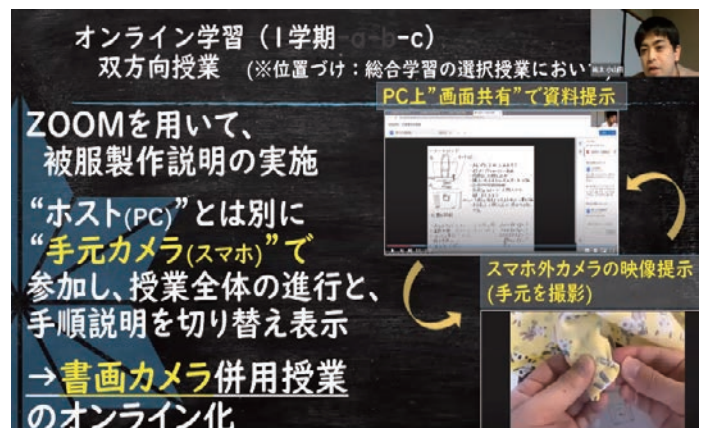
本校は、3・4月の休校措置の間にオンライン学習環境整備を構築し、5月からオンライン学習を開始、6・7月は登校再開になりましたが、分散登校とオンライン学習を併用、9月2学期に通常登校となり、感染対策をしながらの授業を行っている状況です。

1学期のオンライン学習は、PDF、動画により学習内容を提示し、Googleフォームを用いて、確認テストを行いました。実施時間の自由度があり、繰り返し学習が可能、自動採点による即時フィードバック可能等の良い点もありましたが、質問数が減少する、選択問題中心のテストになる等の課題や、教員側の準備に負担も感じました。レポートのオンライン提出については、操作が苦手な生徒が一部見られましたが、概ね容易に提出され、単元の初めに「考えるきっかけ」として用いることも可能ではないかと思われます。また、オンライン学習での双方向授業として、Zoomを用いて被服製作説明の実施を行った際には、PC上で画面共有して資料を提示するとともに、手元カメラ(スマホ等)で授業全体の進行と手順説明を切り替え表示することによって、よりわかりやすく行う等の工夫をしました(スライド参照)。



2年生の課題は、「家族が調理しているところを観察してみよう」としました。調理中の段取りを見ることで調理実習で生かせるようにして欲しいという目的です。別の課題として、「自分の食生活をチェックしよう」とし、食べたものを6つの食品群に分けさせることとしました。

3年生は、例年行事が多いので、各週にすると授業時間に偏りが生じるため、1学期は技術、2学期は家庭分野としています。休校中は、自分の家の食文化について調べることにし「我が家の定番料理を紹介します」を課題としました。プリントのフリースペースは、写真を撮るなど、いろいろ工夫してくれて面白いです。また、「たや通信」では、コロナ禍にあって食の自給率を考えても



2 学期からの通常登校になってからは、予定していた調理実習、幼稚園実習は見送りとなりましたが、福祉分野の車いす体験を実施し、保育分野において、交流実習の代替にはなりません、つながりを意識したおもちゃ制作を検討しているところです。また、住居分野を今こそ見直すべきではないかと考え、間取り図作成演習等でコロナ禍による生活上の空間・環境把握の再認識を図ろうと計画しています。

「新しい生活様式」は家庭科教育だからこそ、考えるツールに出来るのではと考えます。体験的な学びの代替には限界があり、ICT 機器は躊躇していると使えないので、ベストエフォート（最善努力）でやれるといいのではと思います。（文責：志村結美）

Ⅲ. 寄せられた感想

・話題を提供していただいたこと、その後のグループワークと、とても有意義な時間であったという間の2時間でした。コロナ禍での家庭科の授業は、未知なことばかりですが改めて家庭科の授業がどう行っていけばよいか考えるきっかけになったと思います。

・短時間でしたがグループでそれぞれの実践や悩みと今回のフォーラムで学べたことが共有できてよかったと思います。この会の意義も確認できたように思います。

・皆様がどのように工夫されているかを知ることができ、大変充実した時間となりました。リモートによる開催により、参加することができ良かったです。

（文責：阿部睦子）

＜生活やものづくりの学びネットワーク 第12回 総会報告＞

総会につきましては、「ネットワークニュース」19号の掲載をもって書面審議とさせていただき、ご承認いただきました。ありがとうございました。

役員につきまして、ご報告いたします。よろしくお願いいたします。

2020年度 運営体制

9月～2021年9月

世話人

◎ 世話人代表 ○ 世話人副代表

- ◎ 赤塚朋子（日本家庭科教育学会）
- 石井克枝（全国家庭科教育協会）
- 鈴木賢治（産業教育研究連盟）
- 知識明子（家庭科教育研究者連盟）
- 薩本弥生（（一社）日本家政学会）
- 志村結美（（一社）日本家政学会家政教育部会）
- 小野由美子（日本消費者教育学会）
- 仲田郁子（日本家庭科教育学会関東地区会）
- 重川純子（（一社）日本家政学会生活経営学部会）
- 酒井宏子（（一社）日本調理科学会）
- 中山節子（日本家庭科教育学会）
- 上村協子 大塚有里
- 各県、正・副2名を基本とする
- 浅井直美 小谷教子 坪内恭子 渡邊彩子

会計監査
実行委員
事務局



2020年9月3日

第10期中央教育審議会

会長 渡邊 光一郎 様

生活やものづくりの学びネットワーク

世話人代表 日本家庭科教育学会会長 赤塚 朋子

家庭科、技術・家庭科教育充実のための要望書

「生活やものづくりの学びネットワーク」は、2010年9月に、人間性を培う「生活やものづくりの学び」の重要性を広く世間に訴えるとともに、小・中・高等学校における家庭科、技術・家庭科の充実を図ることを目指して設立された団体です。日本家庭科教育学会をはじめ18の団体会員と個人会員346名で構成されております。

「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す新学習指導要領は、小学校から高等学校の各段階において育成を目指す資質・能力が整理され、本年4月から小学校で全面实施となっております。しかし、新型コロナウイルス感染拡大による学校の一斉休業をはじめ、学校再開後も、通常の教育活動が実施できない状況が続いております。

家庭科は、児童生徒が家庭や社会の生活課題に関心をもち、生活をよりよくするための力を身に付けるため、家族や衣食住のほか、消費生活や持続可能な環境への判断力、実践力の育成を目指し、「持続可能な社会の構築」の担い手として現行の学習指導要領より位置付けられ、国際的な課題でもあるSDGsとも大きくかかわっております。

特に、2022年4月から施行される「18歳成年」に伴い、高等学校における消費者教育や生活設計教育がこれまで以上に重要になっており、家庭科教育の果たす役割が大きくなっています。

家庭科や技術・家庭科教育の充実と、生活にかかわる児童生徒の学びの充実のために下記について要望します。

記

- 1 2022年4月からの「成年年齢の18歳への引き下げ」に対応し、「契約」をはじめ自律した消費者となるための教育と生活設計教育を充実する必要があることから、高等学校家庭科は、今後ともすべての生徒に共通履修教科として第2学年までに履修させることを要望します。

成年年齢の引き下げにより、高校生は3年生の段階で成年に達し、単独で契約を締結することができるとともに親権に服することがなくなります。また、結婚年齢が男女ともに18歳以上と改められます。したがって、高校2年生までに、特に「契約」「義務と権利」などの消費者被害の防止を図る教育の充実とともに、家族・家庭や生活設計教育を充実する必要があります。今後とも、高等学校家庭科を共通履修教科として位置付けていただくことを要望します。

- 1 特に、中学校技術・家庭科における免許外教科担任が多いことが指摘されているが、改善の兆しがみられない。学習指導要領に示された家庭科、技術・家庭科の指導ができる教員を養成し配置するのは、国の責任であることから、全ての中学校において基本的に教科の免許所持教員が担当できるよう制度の改善を要望します。

平成29年度「免許外教科担任制度の在り方に関する調査研究協力者会議」資料では、「技術科」と「家庭科」の免許外教員が極端に多く、共に約30%でした。このような状況は、「教育の機会均等と義務教育水準の維持向上を保障」する「公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律」が機能していないと言わざるをえません。全ての中学校において、基本的に教科の免許所持教員が指導できるよう法制度を改善していただくことを要望します。

- 1 新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた小学校家庭科、中学校技術・家庭科、高等学校家庭科の指導が適切に実施できるよう、学校で実施すべきとされた製作、調理実習等については、「少人数指導を原則とする」ことを要望します。

「新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた学習活動の重点化に係る留意事項」（文部科学省通知）によると、「製作、調理等の実習の指導において、実習室の用具や機器、設備などを使用しなければ学習内容の理解や技能の習得を図ることが困難な学習活動については、学校の授業で取り扱うことが望ましい」とされています。実習室で1学級単位の授業を行うと児童生徒間の間隔を保つことができず密状態になってしまうので、実習については、20人程度で授業ができるよう制度改善を図っていただくことを要望します。

会員継続のお願い

★会員の皆様のごこれまでのご尽力に深く感謝いたします。長きにわたり本ネットワークを支えていただいた方々のご退職を期にご退会をお考えかと存じますが、コロナ禍で生活やものづくりの学びの場が危ういなか、生活やものづくりの学びの重要性は増すばかりです。引き続き会員として留まり、ネットワークの活動を支援していただくことで、会員たちがどんなに励まされることかわかりません。どうぞ、会員継続によるネットワークのご支援をよろしくお願いいたします。

新規会員のご紹介を

★生活やものづくりに基づいた学びの必要性の声を高めるために、皆様に会員を一人でも増やしていただきたく、お願いいたします。ネットワークを周りの方や研究会のメンバー、教員、学生、保護者、一般の方にご紹介し入会をお勧めくださるようお願いいたします。
入会届やリーフレット・パンフレット等はホームページからダウンロードできます。

世話人代表 赤塚朋子

事務局からのお知らせ

1. 新メーリングリスト (ML) は、添付ファイルも付けられます

2019 年末より、freeml の ML サービスから XREA by GMO による ML サービスに変わりました。ML を活用して、迅速な情報配信や交流をはかりたいと考えております。多くの皆様の登録・活用をお願いいたします。

また、旧 ML では、添付ファイルがつけられないなど配信の容量を制限する状態でしたが、現在のサービスでは、添付ファイルをつけられる設定にしました。研究会の案内などで、チラシの添付ができるようになりましたのでご活用ください。

配信停止になっていた方やこれまで登録していなかった方は、事務局まで、メールアドレスをお知らせください。

新 ML アドレス : seikatsunetmail-ml.seikatsunet.com@ml.seikatsunet.com

2. 新版ビジュアルパンフレット (2019 年 4 月版) を活用ください

新版ビジュアルパンフレットは、新学習指導要領への対応及び資料を更新するなど大幅な改定を行い、内容を充実させました。

家庭科、技術・家庭科の学びの重要性を理解していただく資料として、すでに大学の授業や研究会、情宣活動等に活用いただいております。

パンフレットがご入用な方は事務局までご連絡ください。

・パンフレット代：無償

・送料：会員拡大用に使用する際は無料

大学等の授業で 31 部以上は着払で有料 (ただし 30 部までは無料)

なお、HP にパンフレットのデータが掲載されています。ご自由に印刷してお使いください。

3. ニュースレター送付先住所の変更について

勤務先の異動、引っ越し等でニュースレター送付先住所が変更になった場合はお早めに事務局までご連絡ください。

なお、送付先は、原則自宅住所でお願いします。

4. 退会届の提出について

退会される場合は「退会届」の提出をお願いしております。ホームページに「退会届」の書式が掲載されておりますので、ご記入の上、メール添付か事務局への郵送でご提出ください。なお、年度ごとの退会となりますので、年会費をお納めの上、退会をお願いします。

事務局メールアドレス : seikatsu_nt@yahoo.co.jp

ホームページ URL : <http://seikatsunet.g3.xrea.com/>

「春の学習交流会」のご案内

2021年3月27日(土)に「春の学習交流会」の開催を予定しています。奮ってご参加ください。

生活やものづくりの学び ネットワーク 春の学習交流会 2021

コロナ禍における実習・実験の工夫
講演とワークショップを行います

日時：2021年3月27日(土) 10:00～12:30
Zoomによる遠隔開催 ※参加費無料

講師：

法政大学中学高等学校 榎府 暢子 先生
筑波大学附属中学校 小林 美礼 先生

参加を希望される方は3月19日(金)までに事務局のWebサイトに掲載のフォーム <https://forms.gle/A87aCT3QLRo9r9En7> あるいは、右記のQRコードからお申し込み下さい。
参加方法を事前にご案内します。



●生活やものづくりの学びネットワーク事務局●

E-mail: seikatsu_nt@yahoo.co.jp

Webサイト <http://seikatsunet.g3.xrea.com/>

総会時の企画と春の学習会のテーマ一覧

年月日	テーマ
2010年9月19日	現代の子どもに必要な学びとは
2011年3月26日	(東日本大震災で中止)
2011年9月25日	これからの農業と私たちの生活
2012年3月31日	原発事故をどう受け止め、学びの場につなげるのか
2012年9月30日	生活やものづくりを大切にできる社会へむけて
2013年3月23日	大仏拝観とご講話「東大寺の修二会」
2013年9月29日	人間がこだわってきたもの
2014年3月29日	授業実践から学び、考える
2014年9月28日	ていねいに暮らす…その思想と姿勢
2015年3月21日	綿から糸を紡ぐ～紡績の道具と機械の話・糸紡ぎ体験～
2015年9月27日	生活やものづくりの学びを通してどのような資質・能力を育てるか
2016年3月27日	ICTを活用した授業事例
2016年9月25日	実物、実感、認識—メディア／教育とジェンダーの研究を踏まえて
2017年9月24日	学習指導要領と「家庭」、「技術・家庭」
2018年3月24日	現代っ子不器用の証明
2018年9月23日	新学習指導要領とこれからの高校「家庭」の展開
2019年3月23日	18歳成年消費者を取り巻く取引社会の様相—消費者問題、消費者法の視点から—
2019年9月23日	豊かな感性を育む「生活やものづくり」の学び
2020年3月29日	(新型コロナウイルス感染症拡大防止で中止)
2020年9月27日	「新しい生活様式」を意識した授業づくり—コロナ禍の中の子どもと学校
2021年3月27日	コロナ禍における実験・実習の工夫(予定)

【2021年度総会・シンポジウム開催のご案内】

以下の通り、総会を開催いたします。
ご予定くださいますよう、お願いいたします。

日時：2021年9月26日(日)午後

場所：キャンパスイノベーションセンター東京あるいは遠隔開催

★内容は、追ってお知らせいたします。

